

TIPA (TeX 国際音声記号)・ギリシャ文字・キリル文字の表記法

藤井 正人

2005.9.1

1. パッケージの指定 (パッケージのインストールについては skt-set-manual.txt を見よ)

TeX ファイルのプリアンブル (`\begin{document}` よりも前の部分) に、

```
\usepackage{tipa}
\usepackage{kdgreek} または \usepackage{lgreek}
\usepackage{cyrillic}
```

を加える。

備考

Plamo の TeX 環境では、kdgreek は下記のような一部文字化けをおこすので、Plamo で作業するときは lgreek を選んでおく。ただし、lgreek は kdgreek に比べて 文字の種類が少ない (例えば イタリックがない)。なお、Babel によっても、ほぼ同じ書き方でギリシャ文字が扱える。Babel のギリシャ語処理については、computer/LaTeX/package/babel/babel-greek を見よ。

2. TIPA の入力法 (詳しくは、tipaman.pdf の 30 ページ以下の表を見よ)

TIPA で表記される記号のうち、通常使うものはわずかである。おもに言語学に関する語を書くときに用いる。TF 方式 (TF) では、変換プログラム sed を使うことで、TIPA の入力法 (T) を簡単にしている。

$\dot{\text{i}}$ = (T) `\textsubarch{i}` または (TF) `{_i}`
 $\dot{\text{u}}$ = (T) `\textsubarch{u}` または (TF) `{_u}`
 $\underset{\cdot}{\text{r}}$ = (T) `\textsubring{m}` または (TF) `\textsubring{r}`
 $\underset{\cdot}{\text{m}}$ = (T) `\textsubring{m}` または (TF) `{@m}`
 $\underset{\cdot}{\text{n}}$ = (T) `\textsubring{n}` または (TF) `{@n}`
 $\hat{\text{g}}$ = (T) `textroundcap{g}` または (TF) `\cap{g}`
 b^{h} = (T) `b\super{h}` または (TF) `b^{\text{h}}`
 k^{u} = (T) `k\super{\textsubarch{u}}` または (TF) `k^{\textsubarch{u}}`
 $\breve{\text{a}}$ = (T) `\textbrevemacron{a}` または (TF) `\u={a}`
 $\breve{\text{i}}$ = (T) `\textbrevemacron{i}` または (TF) `\u={i}`
 $\acute{\text{a}}$ = (T) `\texttip{\'\{u\={a}\}}` または (TF) `\'u={a}`
 $\acute{\text{i}}$ = (T) `\texttip{\'\{u\={i}\}}` または (TF) `\'u={i}`
 $\underset{\cdot}{\underset{\cdot}{\text{r}}}$ = (T) `\texttip{\'\{u\={\textsubring{r}}\}}` または (TF) `\'u={.r}`
 $\underset{\cdot}{\text{a}}$ 以下は、ローマ字の a i u e o r のときのみ (TF) の書き方が可で、他の文字では (T) で書くこと。それ以外は、他の文字でも (TF) が可。

3. ギリシャ文字・キリル文字の入力法

(詳しくは kdgreek/ lgreek/ cyrillic/ 内の sample.tex, sample.dvi を見よ)

(1) ギリシャ文字

```

\begin{greek}
abgdezhjiklmnxoprstufqyw
ABGDEZHJIKLMNXOPRSCTUFQYW
\end{greek}
または
{\greek abgdezhjiklmnxoprstufqyw}
{\greek ABGDEZHJIKLMNXOPRSCTUFQYW}
または
\greek{abgdezhjiklmnxoprstufqyw}
\greek{ABGDEZHJIKLMNXOPRSCTUFQYW}

```

と書くと、以下のように表記される：

$\alpha\beta\gamma\delta\epsilon\zeta\eta\theta\iota\kappa\lambda\mu\nu\xi\omicron\pi\rho\sigma\tau\upsilon\phi\chi\psi\omega$
 ΑΒΓΔΕΖΗΘΙΚΛΜΝΞΟΠΡΣΤΥΦΧΨΩ

(注意)

kdgreek と lgreek では、c に対応するギリシャ文字が異なる。s は、kdgreek と lgreek の両方で、語頭では σ 、語中と語末では ς に自動的に変換されるが、c は、kdgreek ではつねに ς 、lgreek ではつねに σ になる。s だけを使うようにすれば、混乱をさけることができる。

<diacritical marks の打ち方>

(G) = kdgreek および lgreek の入力法 (T) = TIP の入力法

(L) = LaTeX 本来の入力法 (TF) = TF 方式の入力法

以下は `\begin{greek} ... \end{greek}`、`{\greek ...}` または `\greek{...}` 内での入力

\acute{a} = (G) <a
 \grave{a} = (G) >a
 \acute{a} = (G) 'a または (L) \'{a} または (TF) ;a
 \tilde{a} = (G) ~a
 \hat{a} = (L) \^{a}
 \hat{a} = (T) \texttroundcap{a} または (L) \texttroundcap{a}
 \grave{a} = (G) ‘a または (L) \‘{a} または (TF) :a
 \acute{a} = (G) <'a
 \tilde{a} = (G) <~a
 \grave{a} = (G) <'a (kdgreek のとき Plamo では ω に文字化け)
 \acute{a} = (G) >'a
 \tilde{a} = (G) >~a
 \grave{a} = (G) >'a (kdgreek のとき Plamo では ω に文字化け)
 \grave{a} = (G) a|
 \acute{a} = (G) 'a|
 \tilde{a} = (G) ~a|
 \grave{a} = (G) ‘a|
 \acute{a} = (G) <a|
 \acute{a} = (G) <'a|
 \tilde{a} = (G) <~a|

$\dot{\alpha}$ = (G) <'a| (kdgreek のとき Plamo では $\dot{\phi}$ に文字化け)

$\dot{\alpha}$ = (G) >a|

$\dot{\alpha}$ = (G) >'a|

$\dot{\alpha}$ = (G) >~a|

$\dot{\alpha}$ = (G) >'a| (kdgreek のとき Plamo では $\dot{\phi}$ に文字化け)

$\bar{\alpha}$ = (L) \={a} または (TF) aa

$\acute{\alpha}$ = (T) \textacutemacron{a} または (TF) ;aa

$\grave{\alpha}$ = (T) \textgravemacron{a} または (TF) :aa

$\breve{\alpha}$ = (T) \textbrevemacron{a} または (TF) \u={a}

$\underset{\sim}{\alpha}$ = (T) \textipa{\'\u{\=\{\greek a\}}}

(2) キリル文字

```
\begin{cyr}
```

```
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
```

```
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
```

```
\end{cyr}
```

または

```
{\cyr abcdefghijklmnopqrstuvwxyz}
```

```
{\cyr ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ}
```

または

```
\cyr{abcdefghijklmnopqrstuvwxyz}
```

```
\cyr{ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ}
```

と書くと、以下のように表記される：

абцдефгхијкلمнопчрстувшшыз

АБЦДЕФГХИЈКЛМНОПЧРСТУВШШЫЗ